

会議録

会議の名称	令和8年度第1回西東京市行財政改革推進委員会
開催日時	令和8年5月22日（金）午後2時00分から午後3時10分まで
開催場所等	西東京市役所イングビル3階第3会議室及びWEB会議
出席者	<p>委員：横道清孝委員長 鈴木文彦委員 土方正夫委員 池添弘邦委員※ 岸本恒久委員 菱山園子委員 日野泰彦委員</p> <p>事務局：門倉企画政策課長 阪野経営改革特命主幹（企画政策課） 菊地 企画政策課経営改革係長 望月企画政策課経営改革係主査 五十 嵐企画政策課経営改革係主任</p> <p style="text-align: right;">※リモートでの参加</p>
議題等	<p>1 業務改革（BPR）について</p> <p>2 令和8年度事務事業評価について</p> <p>3 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 業務改革（BPR）のスケジュール</p> <p>資料2-1 令和8年度行政評価（事務事業評価）について</p> <p>資料2-2 令和8年度事務事業評価 評価対象事業一覧</p> <p>資料2-3 事務事業評価制度の見直しについて</p> <p>資料2-4 事務事業評価シート</p> <p>参考資料 令和8年度行財政改革推進委員会スケジュール</p> <p>参考資料 行政評価制度マニュアル（評価実務）</p> <p>参考資料 令和8年度西東京市予算の概要「事務事業の概要」編</p> <p>参考資料 西東京市第5次行財政改革大綱～地域経営戦略プラン～</p> <p>参考資料 西東京市第5次行財政改革大綱アクションプラン／地域情報化アクションプラン（令和8年度版）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>開会</u></p> <p>○事務局： 会議の進行の説明 傍聴希望者がいない旨、報告する。</p> <p><u>議題1 業務改革（BPR）について</u></p> <p>○事務局：《資料1について説明》</p> <p>○横道委員長： 委員の皆様から意見等はあるか。</p>	

- 鈴木委員：
本取組はコンサルタント事業者に委託等をしているのか。
- 事務局：
業務量調査、分析・改善案検討等について事業者へ委託業務を実施している。
- 鈴木委員
業務量調査に当たっては作業の定義が重要である。どんな作業でもインプットとアウトプットがあり、アウトプットでは紙等の単位を明確にしてフローを作成すべきである。
また、委託事業者任せきりにせず市が管理する必要がある。そして、今年度実施する事務事業評価のアウトプットとの補完性を持たせるべきである。
- 事務局：
業務量調査では作業の粒度がそろうように配慮する。
また、BPR と事務事業評価を同年度で実施するため、補完性について調整しながら進める。
- 鈴木委員：
体験談としては、調査時に個々が作成しているマニュアルや帳票を収集することも効果的であった。
- 菱山委員：
今年度予算の「行財政改革大綱の推進」事業費の1,196万円の用途は何か。
- 事務局：
事業者への委託料等である。
- 菱山委員：
当該事業者は初めて契約する事業者か。
- 事務局：
令和7年度から継続して契約している。なお、事業者の決定に当たっては、実績等も考慮しプロポーザルで選定した。
- 土方委員：
業務量調査では、各事業の何の数値で図るのか。
- 事務局：
業務時間数ベースであり、こういった作業にどの程度の時間がかかっているのかを可視化する。定型的なノンコア業務等から見直しを進めていくべきであると考えます。
- 横道委員長：
係の1日単位での作業時間を可視化するのか。
- 事務局：

庁内 107 係について、月ごとの作業時間を可視化する。

○横道委員長：

作業の平準化に加えて I T や A I 等に代替されるものについても検討するのか。

○事務局：

代替手段や D X、デジタル化の推進等も併せて検討し、令和 9 年度以降の予算編成につなげたい。

○土方委員：

事業者は代替手段や D X、デジタル化の推進等といった視点でも分析や検討をおこなってくれるのか。

○菱山委員：

そういった視点に特化した事業者なのか。

○事務局：

代替手段やデジタル化等に関しても知見を持っている事業者であり、そういった視点で助言等をいただくことを想定している。

○鈴木委員：

発注者も知識を持って取り組むべきである。

○横道委員長

：

自治体のシステム標準化後の業務想定で業務量調査を実施しているのか。

○事務局：

一部システムを除いて標準化対応が完了しており、標準化後の業務について調査を行っている。

○土方委員：

計画策定等の定常化していない業務について議論をする余地がなくなることを危惧している。創造的な仕事が積極的に行われなくなる側面もある。そのため、一律的な評価に陥らないような視点を持つべきである。

○岸本委員：

業務のスリム化や効率化に加えて、適切な人員配置についても検討を想定しているのか。

○事務局：

職員配置について改良することも想定している。また、業務改革により削減された時間を創造性が問われる業務や市民サービスに活用できると考えている。

○池添委員：

経営改善の一環としてアウトソーシングや D X、デジタル技術の活用等が想定されているが、職員のパフォーマンスの低下やモチベーションの低下といった悪影響も考えられるた

め、目を配りケアする必要がある。

○事務局：

職員のモチベーション等について重要な視点であると考えている。

○日野委員：

スケジュールを見ると、令和9年度、10年度に向けて、今年度が非常に重要な年度となる。調査やヒアリング、分析が重要項目である。調査シートは誰がどのように記載するのか。一次評価、二次評価は誰が行うのか。

また、ジョブローテーションにより属人化しないような仕組みがあると思うが、どのように考えているのか。ヒアリングにはコンサルタント事業者も参加すると良いのではないか。

○事務局：

107 系の係長以下の係員が調査シートに記入をしてもらい、作業内容や作業時間を回答してもらおう。その後、企画政策課でとりまとめて事業者に提出し、集計・分析を行う。

ヒアリングは事業者及び企画政策課職員が実施し、定量的な情報だけでは見えないような課題等を把握する想定である。また、BPR の実施により業務の属人化を防ぐことにもつながると考えている。

○日野委員：

職場の課題等が個別に出てくるものであり、部署のリーダーの意識によるところが大きい。業務内容の変更等への否定的な意見も多いと考えるが、各部署の反応はいかがか。

○事務局：

現時点で否定的な反応は少ない。

○日野委員：

職員の意識づけのためのアナウンスや定期的な研修を実施すると良いと考える。

○土方委員：

内部での相談時間や他部門との調整時間についてどのように評価されるかが懸念である。データのみで判断するのではなくヒアリング等を十分に行う必要がある。

○事務局：

本来必要な時間や人員が削減されることがないように、全てを画一的な視点で判断するのではなく、総合的な視点で判断したい。

○鈴木委員：

個人が1日のうち何時間を何の事業に使ったかを可視化して管理している業態も中にはある。

○土方委員：

国への報告等でも作業や作業時間を求められるが、データのとり方を誤ると、その後の判断を誤ることになり得る。

○横道委員長：

定型業務と非定型業務に分けて見直しを検討する必要がある。いずれにしても、まずは実態を把握しなければならない。

○日野委員：

簡単な打合せや潤滑油のような調整を行う人の作業時間はどのように評価されるのか。数字だけで判断せず、総合的に評価されたい。

○池添委員

ヒアリングの質問者が異なると、質問内容がぶれたり質が落ちたりすることがある。同じ担当者が実施するのが適当だと考える。

○事務局：

ヒアリングは事業者を含めて実施する。対象課は未定だが、事業者は同じチームが参加する。

○池添委員：

企画政策課も同じ担当が出席するのが良い。ハレーションをさけるためにも調査結果がぶれないようにする必要があると考える。

○事務局：

いただいた御意見をふまえて体制を検討したい。

○横道委員長：

ほかに質疑・意見がなければ、次の議題に入る。

議題2 令和8年度事務事業評価について

○事務局：《資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4について説明》

○横道委員長：

委員の皆様から意見等はあるか。

○土方委員：

政策・施策・事業の一貫性の欠如や必要性や有効性の評価のばらつきを懸念している。

○事務局：

一次評価・二次評価ともに庁内の職員が行うため、客観性が担保されるように配慮したい。

○土方委員：

5年等長期で計画しているものが評価対象になった際に、緊急性等を理由に廃止とされるようなことがないように、適切な評価制度ができれば良いモデルになり得る。

○事務局：

御意見を念頭に置いて、今後、評価のありかたを検討する。

○岸本委員：

職員の行動特性やコンピテンシーにスポットを当てることを考えているのか。単一的な基準で評価するだけでなく、各部署における職員の能力についても考慮すべきではないか。

○事務局：

ジョブローテーションで担当が変わる一方で、行政評価は特定の年度や期間にフォーカスして評価することになる。単年度ではなく令和5～7年度の期間で総合的に判断するとともに、丁寧なヒアリングに努める。

○池添委員：

外部評価について、60事業のうち3事業群は少ないのではないかと。一次評価・二次評価について適正になされたかの確認も含めて、本委員会で資料として提示されるか。

○事務局：

過去に60事業を評価対象とした平成28年度も外部評価は3事業群程度であったことや、時間の制約上、3事業群程度としている。

一次評価・二次評価の結果は、本委員会で資料として提示する予定である。

○土方委員：

評価のための評価にならないよう留意したい。また、職員のモチベーション低下につながると意味がない。

外部評価は性格が違うものを3つ選定するのが良いと考える。

○事務局：

その視点で選定を行いたい。

○鈴木委員：

行政評価制度マニュアルの完成度が高いため、周知を行い、自学自習等に有効に活用されたい。学習会等は実施するのか。

○事務局：

学習会の実施予定はないが、一次評価の際に活用している。

○鈴木委員：

作業を積み重ねたものがアウトプットになり、アウトプットはサービスや商品になる。体系を意識しながら取り組んでいただきたい。

○横道委員長：

蓄積データの整備に当たって、AI活用を検討しても良いと考える。

○鈴木委員：

事務事業と公会計データとの紐づけを行うことでコストの整理がされると考える。

○横道委員長：

ほかに質疑・意見がなければ、次の議題に入る。

議題3 その他

○事務局：

次回の委員会の開催は、8月を予定している。

○横道委員長：

これで令和8年度第1回行財政改革推進委員会を閉会する。

《閉会》